

哲学は公民科教育のために 何ができるか？

神戸 和佳子
(東洋大京北中高・非常勤講師／東京大学・院生)

2018.5.18
日本哲学会 哲学教育ワークショップ

自己紹介

東京大学 文学部 思想文化学科 倫理学専修課程

→東京大学大学院 教育学部 基礎教育学コース
(教育史・教育哲学)

哲学教育 (philosophy for children) との出会い

高校公民科非常勤講師

- ・ 東洋大学京北中学高等学校
- ・ お茶の水女子大学附属高等学校

率直な思い

- 哲学者は「公民科教師」に向いていない
- 倫理分野や、思想史的内容は、
思考の「道具」としては大して役に立たない
 - 「公共」は必ず「公共の扉」から扱うことになっているが、本当にそうすべき？

時にはあること

- 「哲学をやっていたからできた」という実感
- 倫理→政経の順で学習してよかったこと
- 哲学によって養われる「公民的資質」

「主体的」であるために不可欠なこと

- 世界のすべては誰も理解できていない
- 人間社会は（どれも、今も）不完全なものであるから、
考え続け、支え続け、更新し続ける必要がある
- 大人（先生）も、ただ共に悩む人でしかない
- これからもずっと、常に、自分の理解は不十分である
- 自分とは異なる価値観をもつ人々と
共生している・共生していかなければならない

こうした「主体的」な社会の形成者として不可欠な感覚は
「哲学」すること（のみ）によって養われる

知識／技能／態度

公民科で哲学・倫理の内容を教えて実感できる意義は...

- △ 哲学史や、主要な概念・論点について理解する
- △ 論理的思考力、批判的思考力が身に付く
(週2コマでは厳しい。他教科との連携も必要。)
- 感覚ではなく理屈で考え「よう」とする
自分の判断や思考を「少しは気にかける」
繰返し問いを重ねて問い直「そう」とする
教員に何度も何度も問い返されても「ひるまない」
前提を問うのにも抽象概念を扱うのにも「慣れている」

「態度」しか養えないが、公民科教育に必要不可欠

実際の授業の紹介

- 倫理（１年必修）の後で政経（２年必修）を教えはじめて思うこと
- 論理学やクリティカルシンキングをほんの数時間だけやってみた感じ
- 倫理の授業展開例（１）：中国思想
- 倫理の授業展開例（２）：プラトン

中国思想の授業展開例

- ①教員が、先哲が格闘してきた「問い」と、その問いに対する先哲の「発想」を紹介
- ②生徒は、先哲とクラスメートと共に問い、先哲やクラスメートの考えに応答する
- ③最後に、授業をふまえて、現時点での自分の（問いや）考えを書く

中国思想の授業展開例

①-1 講義

荀子と韓非子の「礼」をめぐる議論を解説
(人間本性の教育可能性について)

①-2 問いの提示

「形から入って、それで心も変わるのか？」

②学校生活や社会的事象の事例を思い起こしつつ、
クラスメートと対話（教育とは...更生とは...etc.）

③最後に自分が考えていることを書く

プラトンの授業展開例

生徒による授業

- ①担当の生徒が、クラスメートに問いを提示する
- ②その問いを喚起させた先哲の思想と、先哲の思想をふまえて自分が考えたことを紹介（講義）
- ③クラスメートは、授業を受けてあらためて考えたこと&授業を受けて心に浮かんだ問いを書く
- ④生徒同士で共有（回し読み）

プラトンの授業展開例

①担当生徒からの問いかけ

「知識がなくても、賢くなくても、
政治には参加すべきだと思いますか？」

→受講生徒はプリントに最初の応答を書き込む

②担当生徒からの「哲人政治」についての講義、および、
民主政治に対する担当生徒自身の迷いの表明

③クラスメートは、話を聞いてあらためて考えたことと、
授業を受けて心に浮かんだ「問い」を書く

④受講生徒同士で共有（回し読み）

授業のポイント

- 先哲の問いや発想に驚く
- それが自分の生き方や現代社会のあり方とも無関係でないことに気づく
- しかし、先哲の思想も不十分であることに気づき、彼らが遺した課題に取り組み始める
- クラスメートの考えの多様性や、言葉や考えを交わす意義にも気づく

「公共の扉」の展開案

「それは当たり前じゃない！」シリーズ

- 「自分のことは、自分が一番わかってる」
→自分って何？ 【青年期の思想】 【デカルト】
- 「あいさつや敬語は人として大事なこと」
→礼の意義は？ 【中国思想】
- 「決め事をするにはみんなの意見を聴くべき」
→民主政治の弱点は？ 【プラトン・アリストテレス】
- 「仕事をするのはつらいこと」
→資本主義の問題点は？ 【マルクス】

「公共の扉」の展開案

「みんなにとって大きな問題について考えよう！」シリーズ

「悪いことをした人に対してどうするのがよい？」

- ・ 裁いて罰を与える
- ・ 許す
- ・ 復讐する
- ・ 水に流す
- ・ どうしようもない
- ・ その他

【ソクラテス（の死）、ユダヤ教、キリスト教、
神道、親鸞 etc.】

「〇〇ってどういうこと？」シリーズ

「自由」「幸福」「公正」・・・

→ 実は、テーマ別は、議論が噛み合うように教科書で哲学者が選ばれていないと相当やりづらく、あまり推奨できない。
(時代順をやめて、マイナーな哲学者の立場も取り上げた、
テーマ別の教科書というのは、現実的でないのでは。)

まとめ (1)

- 「公共」において哲学が最もよく担いうる役割は、みずから考え、社会を担う主体となるための、「態度」の養成
- それができるなら、内容的には、どんな哲学者や論点を扱ってもよいのではないか（教員や生徒が選択する自由と楽しみは残しておいてほしい。テーマ別は使いやすいが、テーマや人物を限定しすぎるのには反対。）
- 論理学やクリティカルシンキングのごく基礎的な内容も少しは入りたい

まとめ (2)

- 授業の方法も、「哲学的に考える」ことができるなら、自由度が高い方がよい

※個人的には P4C（哲学対話）をするだろうが、すべての教員が実施する必要はない

※講義型もちろん有効、
ただ、生徒の中にある多様性に気づく場面や、
他者と共に探究する経験はほしい

哲学は
すべての高校生のために
公民科教育において
何ができるのか？

あなたの考えも聴かせて下さい。